

出猟記録の分析結果の報告(Ⅲ)

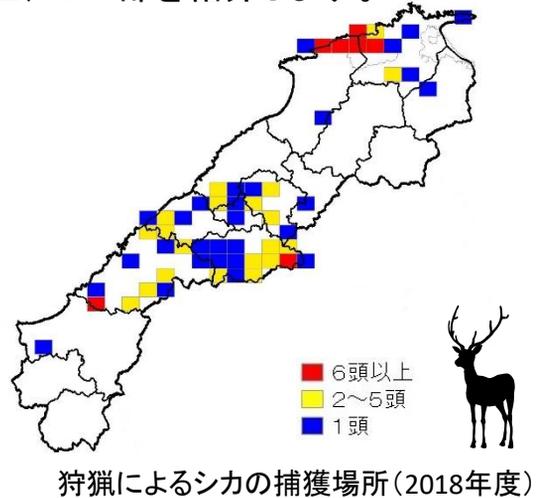
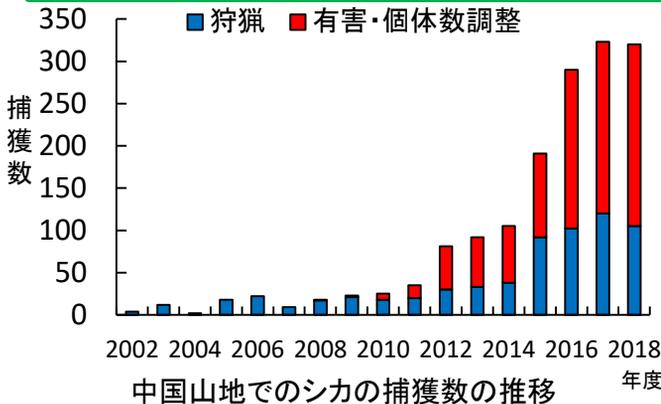
—ニホンジカ編—



—島根県の狩猟者のみなさまへ—

毎年、「出猟記録」へご協力をいただき、ありがとうございます。この分析によって、ニホンジカの生息分布域や生息密度を把握することができました。2017年に(Ⅱ)を報告しましたが、その後の分析結果(Ⅲ)の一部を紹介します。

狩猟による捕獲数と捕獲場所

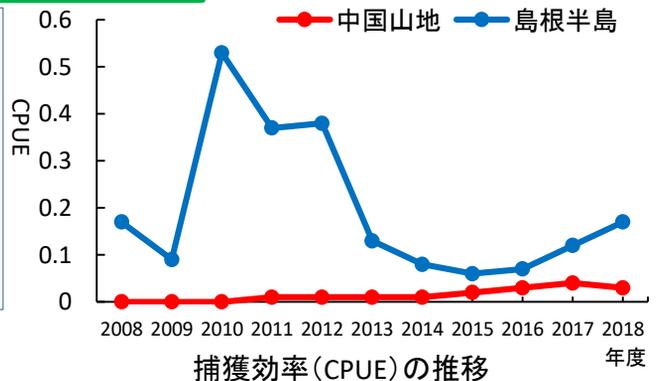


中国山地において、シカの**捕獲数が増加**していることがわかりました。このうち、狩猟による捕獲が30~40%を占めて、ほとんどがくりわなによる捕獲でした。また、県境の市町ではメスも捕獲されていたことから、生息密度の上昇が推測できました。

中国山地のほぼ全域で捕獲されていましたが、邑南町や浜田市などの**広島県境の市町で多く捕獲**されていました。このことから、広島県から分布を拡大してきたシカが増えていると考えられました。

捕獲効率(CPUE)による生息数の動向

脚くり罠での捕獲効率(100台1日当たりの捕獲数)は、島根半島では低下したのに比べて、中国山地では徐々に上昇しました。すなわち、シカの生息数は**島根半島では減少**しましたが、**中国山地では漸増**しているといえます。ただし、中国山地では島根半島の1/6程度の捕獲効率であったことから、ここでのシカの生息密度はまだ低いと考えられます。



今後の生息数の管理

中国山地の広島県境に接する市町を主体にシカが少しずつ増えていることがわかりました。今後は、シカによる農林業への被害発生が心配されます。そのため、シカが増えすぎないように捕獲をしていくことが必要です。そして、今後のシカの生息動向を知るためには、**皆様からのシカの捕獲や目撃報告が重要なデータ**となります。

シカの対策に役立てますので、今後も出猟記録へのご協力をお願いします。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

